

枚方市と枚方市職員関係労働組合の団体交渉の要旨

1. 日 時 令和4年(2022年)6月14日(火) 午後6時30分～午後7時15分
2. 場 所 枚方市職員会館 大会議室
3. 出席者 組合側：執行委員長以下約15名
市 側：総務部長、総務部次長、人事課長、職員課長、教育政策課長、上下水道総務室総務課長、市立ひらかた病院総務課長、書記（人事課・職員課 課長代理）
4. 課 題 「2022年職員採用・人事制度に関わる要求書」及び「男女平等に関する要求書」に基づく交渉（1回目）

<交渉内容要旨>

I. 今年度の採用試験について

組 合	市
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の採用試験の実施時期については、7月に前倒して実施するのか、9月に実施している府下統一採用試験とするのか。 ・ 採用規模等については、概ねどのように考えているのか。特に、司書などの資格枠については、どの程度募集するのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 採用試験の実施時期については、現在検討中であり、次回の交渉で示したい。 ・ 採用規模等については、新たな行政需要や退職者数、事務量の増減や職場実態なども踏まえ、総合的に判断していく。

II. 技能労務職員について

組 合	市
<ul style="list-style-type: none"> ・ 技能労務職の採用について、昨年度は募集が見送られたが、年齢構成や知識・技術の継承の観点からも、採用すべきではないか。現時点で何か言えることはあるか。 ・ 技能労務職員における班長・監督への昇任者が極めて少ないのはなぜか。また、昇任の結果に現場は納得がいかない状況であり、昇任に係る根拠などを示す必要があると考えますが、見解を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適正な年齢構成の維持や、技術・経験の継承の観点は認識しているが、業務の見直しが予定されている部分もあり、総合的な判断が必要と考えている。 ・ 技能労務職に限らず、他の職においても、それぞれの要件に基づき、現在の組織構成のバランスを鑑みたくえ、所属からの推薦、評価結果等を総合的に勘案したうえで決定している。

Ⅲ. 障害者雇用について

組 合	市
<ul style="list-style-type: none">障害者雇用について、これまでからも視覚障害者の雇用を求めてきたが、募集に関する情報が行き渡りにくいことを踏まえ、もっとPRをすべきではないか。	<ul style="list-style-type: none">障害者雇用に係るPRについては、支援学校等への周知などを引き続き行い、働きやすい職場環境等を積極的に周知することで、人材確保につなげていく。

Ⅳ. 著しい繁忙職場について

組 合	市
<ul style="list-style-type: none">昨年度の退職者数から考えると、本年4月の採用者数は極めて少ないが、時間外勤務が恒常的に多い職場への適正な人員配置はできているのか。特に、著しい繁忙状況にある部署は厳しい状況にあるが、現状を認識しているのか。 業務効率化などの取組みだけでは不十分であり、改善策はないのか。	<ul style="list-style-type: none">特に時間外勤務の多かった部署については、増員も含めた対応を行っている。 また、今後も引き続き、各職場の実態を踏まえながら、適切な配置を行っていくとともに、職員の長時間労働縮減の観点から、管理職のマネジメントの強化や、業務改善・効率化の取組みについても、改めて周知を図っていく。

Ⅴ. 初任給格付について

組 合	市
<ul style="list-style-type: none">初任給格付時における前歴換算について、職員の職務と同種の職務に従事した期間を8割換算ではなく、国等と同様に10割換算とすべきではないか。	<ul style="list-style-type: none">前歴換算措置については、在職者との公平性の観点から、見直しは困難である。

VI. 子育て部分休暇について

組 合	市
<ul style="list-style-type: none"> 育児部分休業制度の拡大について、令和4年4月から、対象を小学校3年生までの子に拡充する子育て部分休暇が導入されたが、放課後児童クラブ（留守家庭児童会室）を利用する職員の子の迎えへの対応だけに限らず、状況に合わせて柔軟に、必要とする職員が利用しやすい制度に見直すべきではないかと考えるが、見解を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後に子を留守家庭児童会室などに預けている常勤職員を対象に、仕事と家庭の両立支援を行うことが導入趣旨であることから、留守家庭児童会室などを利用する職員の子の迎えへの対応に限定しているところであり、まずは利用状況を注視したいと考えている。